

授業計画（シラバス）

専門課程 理容科 1年次

広島県理容美容専門学校

関係法規・制度	1
衛生管理	
公衆衛生・環境衛生	2
感染症・衛生管理技術	3
保健	
人体の構造及び機能	4
皮膚科学	5
化粧品化学	6
文化論	7
理容技術理論	8
運営管理	9
理容実習	10
課題演習	11

課目名	関係法規・制度			必修/選択	必修	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	河野 啓		無	
履修年次	1年全期	曜日	水	時限	1	単位数	1	時間数	30
学習目標	法制度の概要から、わが国の衛生行政について学ぶとともに、理容師法・美容師法の用語・規定を理解する。また、理容師・美容師について必要とされる関連法規について知識を深める。								
授業概要	社会生活における法の役割と法制度の概要を理解し、わが国の衛生行政の仕組み、理容師法・美容師法・同施行令・同施行規則等について理解し、理容業・美容業に関する法律や制度について学習する。 講義はパワーポイントとワークシートを活用する。グループ討議等を実施する。								
年間授業計画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回	法制度の概要①			1 社会生活における法の役割「人と社会生活、法とは何か」 2 法の形式「憲法と日本の法令体系、条約、法律、命令、自治法規」					
第2回	法制度の概要②			3 衛生法規の概要「衛生法規の意義、衛生法規の分類と生活衛生法規」 4 理容師法・美容師法と附属法令					
第3回	衛生行政の概要①			1 衛生行政の意義と歴史「行政とは何か、衛生行政の意義、我が国における衛生行政の歴史」 2 衛生行政の分類と生活衛生行政の内容「衛生行政の分類、生活衛生行政」					
第4回	衛生行政の概要②			3 衛生行政を担う行政機関「一般衛生行政の仕組み、厚生労働省の役割、都道府県及び市町村の役割、保健所の役割と機構」					
第5回	理容師法・美容師法①			1 目的 2 用語の定義「理容・美容、理容師・美容師、理容所・美容所」					
第6回	理容師法・美容師法②			3 人（理容師・美容師）に関する規定「概説、養成施設の入所資格、養成施設」					
第7回	理容師法・美容師法③			3 人（理容師・美容師）に関する規定「試験、免許と登録」					
第8回	理容師法・美容師法④			3 人（理容師・美容師）に関する規定「理容師・美容師の義務」					
第9回	理容師法・美容師法⑤			3 人（理容師・美容師）に関する規定「業務停止、免許取消及び再免許、管理理容師・管理美容師」					
第10回	理容師法・美容師法⑥			4 施設（理容所・美容所）に関する規定「概説、理容所・美容所の開設」					
第11回	理容師法・美容師法⑦			4 施設（理容所・美容所）に関する規定「開設者が講ずべき衛生措置、理容所・美容所以外での業務」					
第12回	理容師法・美容師法⑧			5 立入検査と環境衛生監視員 6 違反者等に対する行政処分「違反者等に対する行政処分、不利益処分を行う場合の手続き、違法または不当な処分等についての審査請求」					
第13回	理容師法・美容師法⑨			7 罰則「罰則について、理容師法・美容師法の罰則」					
第14回	関連法規①			1 衛生に関連する法律 2 業の振興に関連する法律 3 雇用に関連する法律 4 消費者保護に関連する法律					
第15回	関係法規・制度のまとめ①			○理容師・美容師試験対策 ○参考資料の確認 1 理容師法・美容師法の構成 2 理容師法・美容師法の歴史					
教科書	関係制度・法規（日本理容美容教育センター）								
参考書	日本国憲法、理容師法・美容師法関係法令集（日本理容美容教育センター）								
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%（欠課時間数は補講を受ける）で単位を認定し 評価を行う。								

課 目 名	衛生管理 (公衆衛生・環境衛生)			必修/選択	必修	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	大田 孝		有 (3年以上)	
履修年次	1年全期	曜 日	金	時 限	1	単位数	1	時間数	30
学習目標	理容業・美容業を通して公衆衛生の維持・増進への責務の重要性を知る。 環境衛生の意義と内容を理解し、理容所・美容所における環境衛生を学ぶ。								
授業概要	公衆衛生の意義、環境衛生、特に理容業・美容業務上で必要な衛生知識などについてテキストに沿って授業を行う。講義は、パワーポイントを使用する。								
年 間 授 業 計 画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	公衆衛生の概要①				公衆衛生の意義と課題				
第2回	公衆衛生の概要②				公衆衛生の発展の歴史①				
第3回	公衆衛生の概要③				公衆衛生の発展の歴史②				
第4回	公衆衛生の概要④				理容師・美容師と公衆衛生①				
第5回	公衆衛生の概要⑤				保健所と理容業・美容業				
第6回	保健①				保健①				
第7回	保健②				保健②				
第8回	公衆衛生 まとめ				まとめ・質疑応答・模擬問題				
第9回	環境衛生①				環境衛生の概要①				
第10回	環境衛生②				環境衛生の概要②				
第11回	環境衛生③				空気環境				
第12回	環境衛生④				衣服・住居の衛生				
第13回	環境衛生⑤				上下水道と廃棄物				
第14回	環境衛生⑥				衛生害虫とネズミ				
第15回	環境衛生⑦ まとめ				環境保全 まとめ・質疑応答・模擬問題				
教科書	衛生管理 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

課目名	衛生管理 (感染症・衛生管理技術)			必修/選択	必修	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	大田 孝		有(3年以上)	
履修年次	1年全期	曜日	金	時限	2	単位数	2	時間数	60
学習目標	感染症に対する正しい知識の習得、その予防方法や対策について学ぶ。 理容所・美容所における衛生管理、特に消毒の意義と目的について学ぶ。								
授業概要	理容・美容の業務と感染症の関わりを理解させる。 消毒薬の特徴を理解させる。								
年間授業計画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	人と感染症				感染症発見の歴史、感染症と法律、感染症の分類				
第2回	病原微生物				微生物の種類、形、大きさ、構造				
第3回					微生物の増殖と環境の影響				
第4回	感染症の予防				微生物の病原性と人体の感受性				
第5回					汚染、感染、発病 免疫、感染症予防				
第6回	理容・美容と感染症				空気、飛沫、経口感染症				
第7回					血液、体液、動物による感染症				
第8回	具体的な対策の例				予防策やその対応				
第9回									
第10回	消毒とは				病原微生物と非病原微生物				
第11回					消毒の原理				
第12回	消毒の意義				汚染、感染、発病と消毒の意義				
第13回					殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義				
第14回	理容・美容の業務と消毒との関係				消毒に関連のある法の規定				
第15回					消毒を怠った場合の危険と理・美容師の責任				
第16回	消毒法と適用上の注意				消毒法の種類、消毒に必要な条件				
第17回					消毒薬の使用や保存上の注意				
第18回	理学的消毒法(殺菌法)				紫外線消毒、煮沸消毒				
第19回					蒸気消毒、その他の理学的消毒法				
第20回	化学的消毒法(殺菌法)				アルコール、塩素剤による消毒				
第21回					界面活性剤、グルコン酸、その他の消毒薬				
第22回	すぐれた消毒法とその実施上の注意				すぐれた消毒薬の条件				
第23回					消毒を行う際の注意事項				
第24回	各種消毒薬				消毒薬の概要、器具の使い方				
第25回					消毒薬の希釈について				
第26回	理容所・美容所の消毒の実際				消毒の原則、消毒設備				
第27回					理容・美容器具類の消毒法 手指の消毒				
第28回	理容所・美容所の清潔法の実際				清潔保持と清掃				
第29回					清掃、消毒、衛生害虫の駆除				
第30回	衛生管理の実践例				理容所及び美容所における衛生管理要領				
教科書	衛生管理 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%(欠課時間数は補講を受ける)で単位を認定し評価を行う。								

課目名	保健(人体)			必修/選択	必修	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	宍戸 裕介		有(10年以上)	
履修年次	1年全期	曜日	火	時限	2	単位数	1	時間数	30
学習目標	人体の構造、機能に関する科学的、系統的知識を理容・美容技術と関連させながら学習する。								
授業概要	人体の構造や機能について頭頸部を中心に解剖学を、人体を理解するために骨格器系、筋系、神経系、感覚器系、血液・循環器系、呼吸器系、消化器系などに分けて学習する。								
年間授業計画									
回	主題			授業内容					
第1回	頭部、顔部、頸部の体表解剖学			人体各部の名称、頭頸部の体表解剖学					
第2回	骨格器系			骨の種類と構造、骨の連結					
第3回	骨格器系・筋系			骨格器系とそのはたらき、筋の種類とその特徴					
第4回	筋系			主な骨格筋とそのはたらき、表情筋と表情運動					
第5回	神経系			神経系の成り立ち、中枢神経系とそのはたらき					
第6回	神経系			末梢神経系とそのはたらき					
第7回	期末試験の解説			期末試験の問題解説と確認					
第8回	感覚器系			視覚、聴覚、平衡感覚、味覚、嗅覚、皮膚感覚					
第9回	血液と免疫系			血液のあらまし、免疫のあらまし、アレルギー					
第10回	循環器系			心臓のあらまし、血液循環の仕組み					
第11回	循環器系			血液の循環経路、リンパ管系の仕組みとはたらき					
第12回	呼吸器系			呼吸器系のあらまし、気道					
第13回	呼吸器系			肺の仕組みとガス交換、呼吸運動					
第14回	消化器系			消化器系のあらまし、消化管の仕組み、消化管のはたらき、消化管と物質代謝					
第15回	期末試験の解説			期末試験の問題解説と確認					
教科書	保健 (日本理容美容教育センター)								
参考書	理容・美容保健 学習指導の手引き (日本理容美容教育センター)								
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

課目名	保健 (皮膚科学)			必修/選択	必修	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	宍戸 裕介		有 (10年以上)	
履修年次	1年全期	曜日	火	時限	1	単位数	2	時間数	60
学習目標	理容師・美容師の業務の特徴上、皮膚や毛髪に関する深い知識が求められることから、お客さまの頭皮、毛髪、肌の健康管理ができる知識を学ぶ。								
授業概要	テキストの内容を別途資料などを踏まえ、分かりやすく解説して理解を深めさせることで理容師・美容師として必要な皮膚やその付属器官についての知識を習得させる。								
年間授業計画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	第1章 皮膚の構造				1項 皮膚の表面、2項 皮膚の断面				
第2回					3項 表皮				
第3回					4項 表皮と真皮の境、5項 真皮				
第4回					6項 皮下組織と皮下脂肪、7項 皮膚の部位差				
第5回	第2章 皮膚付属器官の構造				1項 毛				
第6回					2項 脂腺 (皮脂腺)、3項 汗腺、4項 爪				
第7回									
第8回	第3章 皮膚の循環器系と神経系				1項 皮膚の血管、2項 皮膚のリンパ管、3項 皮膚の神経				
第9回	第4章 皮膚と皮膚付属器官の生理機能				1項 対外保護作用				
第10回					2項 体温調節作用、3項 知覚作用と皮膚反射				
第11回					4項 分泌排泄作用				
第12回					5項 呼吸作用、6項 吸収作用、7項 貯蔵作用				
第13回					8項 免疫・解毒・排除作用、9項 再生作用				
第14回					10項 毛のはたらき、11項 爪のはたらき				
第15回	期末試験の解説				期末試験の問題解説と確認				
第16回	第5章 皮膚と皮膚付属器官の保健				1項 皮膚と全身状態、2項 皮膚と精神、3項 皮膚と栄養				
第17回					4項 皮膚と嗜好品、5項 皮膚と体内病変				
第18回					6項 皮膚の水分と脂の状態				
第19回					7項 皮膚・付属器官とホルモン、8項 皮膚の保護と手入れ				
第20回					9項 毛の保護と手入れ、10項 爪の保護と手入れ、11項 子どものおしゃれによる皮膚トラブル				
第21回	第6章 皮膚と皮膚付属器官の疾患				1項 皮膚の異常とその病態、2項 湿疹・皮膚炎				
第22回					3項 蕁麻疹、4項 薬疹				
第23回					5項 口唇の疾患、6項 温熱・寒冷による皮膚障害				
第24回					7項 角化異常による皮膚疾患、8項 色素異常による皮膚疾患				
第25回					9項 血管腫 (アカアザ)、10項 脂腺母斑、11項 下肢動脈瘤				
第26回					12項 分泌異常による皮膚疾患				
第27回					13項 化膿菌による皮膚疾患、14項 ウイルスによる皮膚疾患				
第28回					15項 真菌による皮膚疾患、16項 衛生害虫による皮膚疾患				
第29回					17項 感染症の皮膚疾患の予防、18項 毛と爪の疾患				
第29回					18項 毛と爪の疾患、19項 皮膚の腫瘍				
第30回	期末試験の解説				期末試験の問題解説と確認				
教科書	保健 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

課目名	香粧品化学			必修/選択	必修	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	石村 憲秀		無	
履修年次	1年全期	曜日	木	時限	1	単位数	2	時間数	60
学習目標	香粧品に用いられている原料の化学性質や配合目的などについて学び、各種香粧品の有用性、安全性、使用目的についての知識を深める。								
授業概要	香粧品概論、香粧品原料、基礎化粧品、メイクアップ香粧品、頭皮・毛髪用香粧品、芳香製品と特殊香粧品の項目に分け解説。業務上使用する香粧品だけでなく、一般の香粧品に表示されている配合成分の性質や配合などについて学ぶ。								
年間授業計画									
回	主題			授業内容					
第1回	1章 香粧品概論			1節 香粧品の社会的意義と品質特性					
第2回				2節 香粧品の規則					
第3回				3節 香粧品の安定性と取り扱い上の注意					
第4回				4節 香粧品と安全性					
第5回	2章 香粧品原料			1節 香粧品の対象となる人体各部の性状					
第6回				2節 水性原料					
第7回				3節 油性原料					
第8回				4節 界面活性剤					
第9回				5節 高分子化合物					
第10回				6節 色材					
第11回				7節 香料					
第12回				8節 その他の配合成分					
第13回				9節 ネイル、まつ毛エクステンション用材料					
第14回	3章 基礎化粧品			1節 皮膚清浄用香粧品					
第15回				2節 化粧水					
第16回				※前期期末試験の解説					
第17回				3節 クリーム・乳液					
第18回	4章 メイクアップ用香粧品			4節 その他の基礎化粧品					
第19回				1節 メイクアップ用香粧品の種類と剤形					
第20回				2節 ベースメイクアップ香粧品					
第21回	5章 頭皮・毛髪用香粧品			3節 ポイントメイクアップ香粧品					
第22回				1節 シャンプー剤					
第23回				2節 スタイリング剤					
第24回				3節 パーマ剤					
第25回				4節 ヘアカラー製品					
第26回	6章 芳香製品と特殊香粧品			5節 育毛剤					
第27回				1節 芳香製品					
第28回	香粧品科学を理解するための基礎化学			2節 特殊香粧品					
第29回				香粧品科学を理解するための基礎化学					
第30回				※後期期末試験の解説					
教科書	香粧品化学 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

課目名	文化論			必修/選択	必修	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	門田 悠輔		有(1年以上)	
履修年次	1年全期	曜日	火	時限	2	単位数	2	時間数	60
学習目標	お客様が求める美しさを的確に理解し、お客様との間にしっかりとした意見の一致を得た上で技術の提供ができるように、ヒントや創造の幅を広げるための基本を学ぶ								
授業概要	理容・美容の語義や現代社会との関わり、造形要素を学び、また文化史の中での理容と美容がどうかかわってきたのかを学習する。								
年間授業計画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	総論				1、総論				
第2回 }	日本の理容業・美容業の歴史				1、理容業・美容業の発生 2、江戸時代の理容業・美容業 3、近代の理容業・美容業 4、現代の理容業・美容業				
第6回 }	ファッション文化史 日本編				1、縄文・弥生・古墳時代 2、古代、飛鳥・奈良・平安時代 3、中世、平安末・鎌倉・室町・戦国時代 4、近世、戦国末・安土桃山・江戸時代 5、近代、明治・大正・昭和20年まで 6、現代、1945年～2000年以降				
第16回 }	ファッション文化史 西洋編				1、古代エジプト 2、古代ギリシャ 3、古代ゲルマン 4、中世ヨーロッパ 5、近世、16世紀～18世紀 6、近代、18世紀末～19世紀 7、現代、1910年代～2010年まで				
第27回 }	礼装の種類				1、和装の礼装 2、洋装の礼装				
教科書	文化論 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100%(欠課時間数は補講を受ける)で単位を認定し評価を行う。								

課目名	理容技術理論			必修/選択	必修	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	門田 悠輔		有 (1年以上)	
履修年次	1年全期	曜日	月	時限	1・2	単位数	5	時間数	150
学習目標	技術の理論を理解し、しっかりと基礎を身につけ将来役立つ技術として習得する。								
授業概要	カッティング技術、シェービング技術をはじめ人の容姿を整えることに関する技術のすべての習得。								
年間授業計画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回 ┌	理容技術の基礎			人体各部の名称 理容技術における技術姿勢 理容技術とトレーニング					
第4回 ┌	理容用具			理容と用具 理容用具と衛生					
第7回 ┌	ヘアデザイン			ヘアスタイリングとデザイン ヘアデザインの要素 ヘアスタイル					
第10回 ┌	ヘアカッティング			カッティングの基本原則 スタンダードヘアの概要 スタンダードヘアの用具の持ち方と操作 スタンダードヘアのカット技法 デザインヘア					
第23回 ┌	ヘアセッティング			ヘアセッティングの種類と実際 レディースヘアのスタイリング					
第26回 ┌	パーマメントセット			パーマメントウェービング ワインディング コールド2浴式パーマメントウェーブ					
第30回 ┌	ヘアカラーリング			色彩の原理 染毛剤の種類と原理 染毛剤の安全性と取り扱い上の注意 技術のプロセス (おしゃれ染め、白髪染め)					
第39回 ┌	シェービング			シェービングの種類・基本技術と要領 シェービングのプロセス メンズフェイスシェービング・ネックシェービング グルーミング レディースシェービング					
第46回 ┌	理容エステティック			理容エステティックを学ぶにあたって スキンケア フェイシャルケア ハンドケア フットケア 理容アロマセラピー					
第52回 ┌	理容クリニック			ヘアクリニックのカウンセリング トリートメント ヘアケアとスカルプケア 毛髪の基礎知識 ヘアチェック (毛髪診断) 頭皮の基礎知識 スカルプチェック ウイッグ					
第62回 ┌	シャンプー&リンシング			シャンプーの方法・技法 リンシング					
第66回 ┌	理容マッサージ			マッサージの効果と意義 理容マッサージのマニピュレーション ヘッドマッサージ クリニックマッサージ					
第71回 ┌	ヘアトリートメント			ヘアトリートメントの種類 ヘアトリートメント					
第73回 ┌	スカルプトリートメント			スカルプトリートメントの種類 ベーシックスカルプトリートメント					
教科書	理容技術理論 1・2 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

課目名	運営管理			必修/選択	必修	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	講義	門田 悠輔		有(一年以上)	
履修年次	1年全期	曜日	水	時限	2	単位数	1	時間数	30
学習目標	経営者の考え方や経営者が果たす責任・役割を学ぶ 人を雇うことの責任や働くうえで求められることを学ぶ 顧客を満足させるサービスとは何か。それをどう実現するかについて学ぶ								
授業概要	経営者の視点と経営者の努力を理解して、自らがどのように行動すべきか、仕事がどのように創られているのかを学び考え、美容師の仕事を通じて顧客や社会に対する責任を具体的に学習する。								
年間授業計画									
回	主題			授業内容					
第1回	経営とは・経営者とは			1、経営が必要とされる理由					
第2回				2、継続が難しい理由・経営が必要な理由 3、経営とは何か、経営資源と経営計画 4、経営戦略					
第3回	理容業・美容業の経営について			5、経営戦略が目指すもの・顧客に選ばれる店の実現					
第4回	資金の管理			1、業界の概要、競争の変化 2、サービスとしての理容・美容 3、理容業・美容業の顧客について					
第5回	人という資源			1、資金管理の重要性、収支と損益 2、会計の考え方、コストを管理する 3、税金について					
第6回	健康・安全な職場環境の実現			1、人という資源とは、人の能力を高める 2、人をやる気にさせるために 3、給与、待遇・福利厚生、労働者の権利					
第7回				1、健康管理の基礎 2、理容・美容の仕事と健康 3、理容業・美容業に特徴的な健康課題 4、理容・美容の作業環境に関する健康問題					
第8回	従業員としての視点から			1、社会人としての責任・理容業・美容業の従業員としての責任					
第9回				2、社会保険 公的年金・医療保険・労働保険 3、キャリアプランの重要性 4、仕事をするうえで考えるべきこと					
第10回	サービス・デザイン			1、顧客が求める価値、価値の実態 2、顧客満足の実現のためのシステム 3、最も重要な価値：人 4、価値の多様性、サービスの範囲					
第11回				1、理容業・美容業のマーケティング 2、マーケティング・ミックス 3、サービスのシステム化					
第13回	マーケティング			1、接客についての理解、よい接客のために 2、接客の実践 3、接客におけるトラブルと対応 4、接客で発生が予想される問題 5、問題を深刻化させないための対策・対処					
第12回									
第14回	サービスにおける人の役割								
第15回									
教科書	運営管理 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	前期・後期試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

課目名	理容実習			必修/選択	必修	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	実習	門田 悠輔	有 (1年以上)		
履修年次	1年全期	曜日	月～金	時限	3	単位数	17	時間数	510
学習目標	「理容技術理論」に基づき、理容師に必要な基礎技術の理解と習得を目的とし、国家試験の合格、各種競技会への出場を目指していく。								
授業概要	教員による見本、映像教材等を用い、目で確認しながら基本を体得できるように繰り返し練習をおこなっていく。								
年間授業計画									
回	主 題			授 業 内 容					
第1回)	スタンダードヘア			基本姿勢 姿勢の変化 スタンダードヘアカットの用具の持ち方と操作 スタンダードヘアカットの用具の持ち方と操作 スタンダードヘアカットの用具の持ち方と操作					
第11回)	デザインヘア			デザインヘアカットの用具の持ち方と操作 ブロッキング デザインカットの基本パターン					
第21回)	パーマネントウェービング			アップシステム (上巻き) ダウンシステム (下巻き) ワインディング					
第31回)	スタンダードヘア			ミディアムロング					
第41回)	ヘッドマッサージ			ヘッドマッサージ					
第51回)	シャンプーイング&リンシング			スタンドシャンプー					
第61回)	シェービング			フェイシャルトリートメント シェービングの基本技術と要領 メンズフェイスシェービング メンズネックシェービング					
第71回)	ヘアセッティング			基本セット ドライヤーセット					
第81回)	シェービング			レディースシェービング スキンケア					
第91回)	デザインヘア			デザインカットの基本技術 デザインカット ストロークカット・チョップカット レザーカット					
第101回)	シャンプーイング&リンシング			バックシャンプー					
第111回)	ヘアカラーリング			白髪染め おしゃれ染め					
第121回)	ヘアクリニック			ヘア&スカルプトリートメント ヘアトリートメント					
第126回)	アイアニング			持ち方と技法 アイアニングの手順					
教科書	理容実技理論1・2、理容実習1・2 (日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	1期・2期・3期 期末試験60点以上、出席率100% (欠課時間数は補講を受ける) で単位を認定し評価を行う。								

課目名	課題演習			必修/選択	選択	担当者		理容師実務経験の有無	
				授業方法	実習	門田 悠輔		有(1年以上)	
履修年次	1年後期	曜日	木	時限	1・2	単位数	1	時間数	30
学習目標	国家試験実技課題の習得及び接客能力の向上、コミュニケーション力を身につける								
授業概要	実習課題の反復訓練、接客シミュレーション								
年間授業計画									
回	主 題				授 業 内 容				
第1回	接客				接客シュミレーション				
第2回									
第3回									
第4回									
第5回	ヘアカッティング				国家試験実技課題				
第6回									
第7回									
第8回									
第9回	ヘアセッティング				国家試験実技課題				
第10回									
第11回									
第12回	シェービング				国家試験実技課題				
第13回									
第14回									
第15回									
教科書	理容実技理論1・2、理容実習1・2、運営管理(日本理容美容教育センター)								
参考書									
成績評価	期末試験60点以上、出席率100%(欠課時間数は補講を受ける)で単位を認定し評価を行う。								